

第15回日本応用老年学会大会を 成功裏に開催



ダイヤ高齢社会研究財団 研究部長 石橋 智昭

2020年10月2日（金）・3日（土）に筆者が大会長を
拜命し、当財団が大会運営を務めた「第15回日本応用
老年学会大会」が成功のうちに幕を閉じました。

日本応用老年学会は、「老年学」の知識を商品やサービス
開発、生きがいや社会貢献プログラム等に利活用するための
産学官民のネットワークセンターとして2006年に発足した
学術団体です。

その2020年度の大会運営にあたり、私たちは『産学官
民連携による人生100年時代のイノベーション』をテーマ
に掲げました。開催会場には、明治安田生命保険相互会社
様の特別協賛を得て、本社ビルの会議室フロアをメイン会
場に設定し、産業界の方々の呼び込みに注力した企画を進

めてきました（Dia News No.100参照）。しかし残念ながら、
新型コロナウイルスの影響により会場開催を断念せざるを
得なくなり、当財団の会議室等からオンライン配信にて
大会を実施することとなりました。

大会1日目には、企業や非営利組織による先進的な事例
を共に学ぶための4つの公開シンポジウムを設定し、172
名の方にオンラインで視聴いただきました。シンポジウム
①では「健康寿命と資産寿命の延伸」をテーマに、座長に
聖学院大学の古谷野亘氏を迎え、明治安田生命保険の中
敏彦氏、岡三証券グローバル・リサーチ・センターの高田
創氏、スハラFP コンサルタントの須原國男氏が、高齢期の
充実を図るための「平均寿命・健康寿命・資産寿命」の観

第15回日本応用老年学会大会ポスター

第15回 日本応用老年学会大会
産学官民連携による
人生100年時代のイノベーション

会期 2020年10月2日(金) 3日(土)

会場 オンライン開催 (Zoom利用)

主催 一般社団法人 日本応用老年学会

共催 公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団

大会長 石橋智昭 (ダイヤ高齢社会研究財団)

協賛 明治安田生命

MITSUBISHI CHEMICAL

社会福祉法人 亀鶴会

公益社団法人 全国シルバー人材センター事業協会

一般財団法人 オレンジクロス

点から講演を行い、シンポジウム②では「認知症になっても皆が緩やかにつながる地域とは？～民間企業の役割～」をテーマとして、当財団主任研究員の澤岡詩野を座長に、国土交通政策研究所の石井義之氏、NPO 法人ワンダフルキッズの水野隆史氏、デイサービス隣家の西野裕哉氏が、認知症を支える地域コミュニティにおける民間企業連携の重要性を訴えました。シンポジウム③では「就業支援の視点からみたシニア人材の活躍」をテーマとし、座長に東京都健康長寿医療センター研究所の藤原佳典氏を迎え、全国シルバー人材センター事業協会の姉崎猛氏、リクルートジョブズの宇佐川邦子氏、東京観光財団の新保邦彦氏が、高齢者就業の課題を多角的に捉え、シンポジウム④では「ジェロントロジーと企業活動」をテーマとし、女子栄養大学の新開省二氏を座長に、三井住友信託銀行の金井司氏、ダスキン塩谷和也氏の両氏より、企業の視点からシニアビジネスへのジェロントロジーの活用について、また、経済産業省の川口俊徳氏がヘルスケアサービス産業全般の動向を解説しました。それぞれのシンポジウムで、チャット機能を使って質問を受け付け、座長が取りまとめて各演者が意見を述べ合うなど、ライブ配信ならではの臨場感のあるディスカッションが実現しました。

2日目には、オンラインを通じて25題の一般演題が口頭で発表され、60名の研究者による熱心な質疑応答を通じて、「老年学」の最新知見を共有しました。また、初めての試みとしてオンライン投票による優秀演題賞の選出も行い、

発表者2名を表彰しました。

今年度開催されたほとんどの学会はオンライン開催を余儀なくされ、その多くが発表ポスターのオンライン閲覧や事前収録による配信で実施されています。こうしたなか、全プログラムをライブ配信と決断したことには大きな不安を伴いましたが、大会運営スタッフおよび関係者の皆様のご支援により、大きなトラブルもなく成功裏に終えることができました。また、コロナ禍での運営に際して三菱ケミカル株式会社様からは協賛金のほかに感染防止対策の亚克力板を提供いただき、ライブ配信の実現に多大なご支援をいただきました。

最終日の閉会式では、日本応用老年学会の柴田博理事長より、民間研究機関による初の大会運営であったが、公開シンポジウムの視聴者は7割が学会員以外の企業や行政、民間団体の実務者になるなど、学会のミッションにふさわしい充実した大会であったと賞賛の声をいただきました。

今回の大会運営の成功が当財団のプレゼンス向上につながるよう、産学官民のネットワークをより一層活かして研究活動を展開していきたいと考えます。

最後に、大会に協賛いただいた各団体の皆様、学会関係者および参加いただいた皆様に、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

公開シンポジウム①の中継の様子



一般演題発表の配信画面

